

平成 30 年 2 月 3 日(土)、脳血管研究センター講堂にて平成 29 年度マネージメント研修会が開催された。会員 38 名、賛助会員 7 名の参加があった。

初めに最新の医療政策動向について、GE ヘルスジャパン株式会社株有田葉子氏が講演された。診療報酬改定における画像診断関連の詳細な内容および地域医療構想・病院経営効率化支援などについて言及された。画像診断分野の方向性については、3TMRI の評価や心臓 MRI・小児鎮静化 MRI など実態に合わせた改定要望などが取り上げられた。また、画像診断管理加算4の創設なども紹介された。

続いて「放射線部門のリスクマネジメント《をテーマに 5 名の会員による発表が行われた。まず、加藤 守氏(秋田県立脳血管研究センター)による「IVR における医療従事者・患者被ばく管理 \* 最近の ICRP の動向を踏まえて \* 《の講演が行われた。ICRP Publication85 の考え方が現在の被ばく線量管理の基本になっていること、Publication120 での被ばく用語の修正についての解説、被ばく線量の管理などを説明し、皮膚障害への対応の大切さを訴えた。

次に郡山 邦夫技師長(市立横手病院)が「CT 検査急変時におけるシミュレーション訓練の経験《をテーマに講演した。動画も交えながら反省点などを話され、訓練の大切さや必要性を感じた。2 度目の訓練ということで、手際よく行動されている様子がかがえた。

続いて黒澤 慎哉氏(秋田労災病院)が「労災病院グループにおける MRI の安全管理について《講演した。吸着事故、フロンガス抑制法、貼付剤、刺青患者に対する同意書について話された。吸着事故の具体的な事例をあげ、フルメンテでも相当の金額がかかることを紹介した。また、貼付剤フェントス・フェンタニルテープなどは麻薬取締法により廃棄してはいけないことなどが紹介された。安全確認の大切さが再認識された。

4 番目として伊藤 浩技師長(能代厚生医療センター)が「放射線治療の安全管理《について講演した。治療の流れから線量校正、線量管理の具体的な方法、独自の工夫などを紹介した。大館市立病院との連携などが紹介され、マニュアルの整備と他施設との横のつながりによる安全を担保し合う仕組み作りが必要とした。

最後に加羽 馨技師長(市立角館総合病院)が「病院新築における安全対策《について講演を行った。新築計画から開院までの流れ、開院での許可申請と保健所への手続き、機器搬入スケジュール、装置紹介などを話された。新たに HIS・RIS・PACS などの導入があり、業務が軌道に乗るまでも大変なご苦労があったと思われる。

医療現場における安全管理の重要性は増すばかりです。放射線診療においては、通常必要とされる一般安全管理に加え、被ばく管理・造影剤使用時の安全管理・MRI における高磁場対策・放射線治療における線量管理などが必要になります。今日の講演会を期に安全性の再確認をして頂ければと思います。

(記 畠山)

